

学番	10	県立新潟向陽高等学校
----	----	------------

令和7年度

学校自己評価表（評価）

学校運営計画		
学校運営方針	○ いつも明るく希望をもって、積極的に自己の運命をきり開いていく人間を育成する。 (1) 生徒の充実感と保護者の満足が得られる学校 ○ 規範意識と他者を思いやる心を育成し、生徒が安全安心に過ごせる学校 ○ 確かな学力の育成と3年間の計画的、継続的な指導で進路実現を図る学校 (2) 全日制単位制の特長を生かした教育を推進する学校 ○ 多様な科目選択により、得意分野の伸長や希望進路を実現できる学校 ○ 自分の将来について考え、決断し、実行する力を育む学校	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。 ②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。 ③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。 ②積極的なICTの活用や探究的な学びをとおして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。 ③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をとおして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	～このような生徒を求めています～ ①将来の目標に向かって自ら進んで学び、努力を継続できる生徒。 ②規範意識をもち、異なる考え方も尊重でき、困難を自ら解決しようとする生徒。 ③部活動、学校行事等に積極的に参加し、自分の特長を伸長できる生徒。	
今年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標
今年度の成果と実績は以下のとおりである ()は前年度 ・高校生活満足度調査 1年 86.4%(81.4%) 2年 75.0%(75.6%) ・入学者一般選抜倍率 1.14倍(1.17倍) ・中途退学者(率) 0名【0.0%】 (2名【0.3%】) ・転学者数(率) 16名【2.7%】 (15名【2.6%】)	1 基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成、教育相談等の充実(教職員全員で、安全・安心で信頼される学校づくり)	ア 基本的な生活習慣の確立 規範意識の醸成(学校生活の中で、礼儀と秩序を重んじ、社会性を育てる) ・時間厳守、挨拶励行などの基本的な習慣が身につくよう粘り強く指導する。 ・身だしなみ等については、本校規程に基づいて教職員全体で指導する。 イ いじめ見逃しゼロ(いじめを許さない、見逃さない学校体制) ・教職員全体での情報共有を確実にし、組織的に対応する。 ・有事の際には、法令および「いじめ対応マニュアル」により対応する。 ・人権に配慮した言動で対応し、「かかわる同和教育」を推進する。

<ul style="list-style-type: none"> ・出席率 1年 96.9%(96.9%) 2年 95.3%(95.5%) 3年 95.8%(96.1%) 全体 95.8%(96.2%) ・進路実現 就職：3月末内定率 100%(100%) 進学：国公立大合格 1名(2名) 公立短大 1名(0名) 		<ul style="list-style-type: none"> ウ 教育相談体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・計画的面談・緊急的面談を実施し、生徒理解に基づく丁寧な指導、学級運営を行う。 ・各種事案を担任等が抱え込まず、組織的に対応する。 ・スクールカウンセラー等を積極的に活用する。
	2 学習習慣の確立、基礎・基本の定着、学びのある授業実践（授業改善とICT利活用の推進）	<ul style="list-style-type: none"> ア 教育の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら考え、主体的に取り組む力を育成するための授業改善を行うとともに、探究的な学びの機会を創出し、確かな学力を育成する。 ・ICT環境の効果的な活用、学ぶ意欲を向上させ、分かりやすい授業を行う。 ・不登校傾向にある生徒への学習保障を行う。 イ 学習評価の改善・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価を一体化させ、教員の指導改善や生徒の学習改善につなげる。
	3 進路情報の積極的な提供、丁寧な個別指導による進路希望の達成	<ul style="list-style-type: none"> ア 進路情報の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者に、早い段階から積極的に進路情報を提供しよう努める。 ・進路選択と科目選択を関連づけた丁寧な指導に努める。 イ 生徒に寄り添った指導 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者の意向を汲み、個々の状況に応じたきめ細かな指導を行う。 ・進路希望の実現に向け、粘り強く取り組むよう支援・指導する。
	4 保護者や地域に信頼される「開かれた学校」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ア 学校評価の実施による学校運営改善 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校評価、授業評価及び自己評価アンケートを実施する。 ・保護者による学校評価、自己評価アンケートを実施する。
	5 教職員の多忙化解消	<ul style="list-style-type: none"> ア 統合型校務支援システムを有効活用する。 イ ペーパーレス化等による会議の簡素化を図る。 ウ 「新潟県部活動の在り方に係る方針」を遵守し、部活の適正化を図る。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
1 基本的生活習慣の確立 規範意識の醸成 教育相談等の充実 (教職員全員で、安全・安心で信頼される学校づくり)	ア 基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成 (学校生活の中で、礼儀と秩序を重んじ、社会性を育てる)	頭髮・服装指導を軸に、身だしなみについて考えさせる指導を、年間を通して定期的・継続的に実施する。(生徒指導部)	B	B	B
		始業時および各時限における時間遵守の徹底をはかり、時間を守る態度や実践力を育む。(生徒指導部)	B		
		規範意識を高め、集団生活に適應する能力を養う。(生徒指導部)	B		
		校外生活における正しい生活習慣を身に付けさせ、非行や犯罪に関与しない道徳的態度を養う。(生徒指導部)	B		
		スマートフォン等は始業から清掃終了まで使用しないことを定着させる。SNSの適切な使用方法について、指導する。(生徒指導部)	B		
		始業時および各時限における時間遵守の徹底をはかり、時間を守ることの重要性を指導する。(1年次)	B		
		頭髮服装検査を定期的に行い、高校生としての身だしなみについて考えさせる。年間を通して継続的な指導を行う。(1年次)	B		

		生徒同士が互いに尊重し、敬愛し合うことにより、良好な人間関係を構築できるよう指導する。（１年次）	B		
		高校生としての在り方（服装を整える・時間を守る）を身に付け、基本的な生活習慣の確立を図る。（２年次）	B		
		挨拶の励行や時間厳守などの基本的な生活マナーの定着を図る。身なりや言動に自覚を持たせ、コミュニケーション力の向上を図る。（３年次）	B		
		生徒会執行部を中心に、各委員会、各クラス、職員が連携し、学校全体で行事に取り組む。（生徒会指導部）	B		
		生徒の活動を支援するためのよりよい仕組みを常に検討する。（生徒会指導部）	A		
		生徒会執行部への加入をすすめ、行事の立案など中心となる生徒を育てる。（生徒会指導部）	B		
		部活動の活性化のため、活動費を支援し、部活動紹介などで積極的な参加を促す。（生徒会指導部）	A		
	イ いじめ見逃しゼロ （学校生活の中で、礼儀と秩序を重んじ、社会性を育てる）	困っている生徒が、教員やスクールカウンセラー等に、いつでも何でも話せるような校内体制と雰囲気を作る。（いじめ対策委員会）	B	B	
		困っている生徒には、全職員が早急に最善の方法で対処できるよう、研修等を通じて力量を高めるよう計画を立てる。（いじめ対策委員会）	B		
		人権教育、同和教育をとおして、人権尊重の精神を養う。（人権教育、同和教育委員会）	B		
	ウ 教育相談体制の充実	職員自らが積極的に挨拶、声かけを実践する。（生徒指導部）	B	B	
		生徒相互がよりよい人間関係を構築できるよう、職員は常に生徒理解に努める。（生徒指導部）	B		
		生徒が抱える多様な問題に柔軟に対応するため、全職員の共通理解をはかる。（生徒指導部）	B		
		学校外の諸機関との連携をはかり、情報交換を密に行う。（生徒指導部）	B		
		保護者に対する情報提供を心掛け、相互協力体制を築く。（生徒指導部）	B		
2 学習習慣の 確立 基礎・基本 の定着	ア 教育の 質の向上	I C Tに関する職員研修や互見授業週間をとおして、I C Tを効果的に活用した分かりやすい授業を行うとともに、生徒が自ら考え、主体的に取り組む力を育成するための授業改善を行う。（教務部、教育情報部）	B	B	B

学びのある 授業実践 (授業改善 とICT 利活用の 推進)		授業変更をとりまとめ、職員の出張等が重なる時期にも授業の振り替えや教材の準備をすることで、生徒の学習が円滑に進むように環境を整える。(教務部)	B		
		不登校傾向にある生徒を年次等と連携して早期に掌握し、当該生徒への学習保障を図る。(教務部)	B		
		高校における単位履修と修得、進級の仕組みについて、随時説明し、毎日の授業に真剣に取り組むことの大切さを理解させ、自覚させるように指導する。(1年次)	B		
		普段の授業や家庭学習の定着など、継続的な学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。(2年次)	B		
イ 学習評価の改善・充実		2学期制により、授業時間をバランスよく十分に確保することで、指導と評価の一体化につなげる。授業改善や学習評価についての情報を職員間で共有できるように努める。(教務部)	B	B	
		定期考査後や長期休業後の課題テストの結果を振り返らせ、その後の学習に生かせるよう指導する。(1年次)	B		
		模擬試験の受験やサポートアイテムの利用など、学力や実力を把握する。資格・検定試験の合格を目指す。(2年次)	B		
3 進路情報の積極的な提供 丁寧な個別指導による進路希望の達成	ア 進路情報の提供	関係機関や学校独自による啓発のための進路説明会を実施する。(進路指導部)	B	B	B
		進路講演会やキャリア教育講演会によって、進路実現のために必要な取組や社会規範、その知識及び実践方法を理解させる。(進路指導部)	B		
		進路に関する情報を適切に保護者等に伝えることによって、保護者との連携を深める。(進路指導部)	B		
		インターンシップを実施し、職業観を育成するとともに、進路に対する意識を高め、進路実現に役立てる。(進路指導部)	A		
		進路学習を通じ、早い時期から自分の進路希望を明確なものとするように指導する。(1年次)	B		
		キャリアセミナーなどを通して、将来就きたい職業について具体的に考えさせ、その実現に向けて必要なことは何かを考えるきっかけとさせる。(1年次)	B		
		学校見学や各種ガイダンスに参加させ、早期の進路決定を促し、キャリア教育の充実を図る。(2年次)	B		
	イ 生徒に寄り添った指導	進学、就職関係資料の充実と、過去の実績の開示や相談を行う。(進路指導部)	B		

		進路指導部による進学・就職希望者の個別面談を実施する。(進路指導部)	A			
		卒業生に進路実現に向けた活動を通して実感したことについての講話をしてもらい、生徒に進路実現に向けた取り組みの準備をさせる。(進路指導部)	A			
		教育相談や三者面談などの機会を活用して、本人・家庭との連携を図り、進路実現のためのサポートやバックアップを行う。(3年次)	B			
		進路ガイダンスや各種模擬試験、進学補習や小論文指導、面接指導などを通して、実践力の向上を図る。(3年次)	B			
4	学校評価の実施に 保護者や地域に信頼される「開かれた学校」づくり	年次や他の分掌と連携を密にし、各種行事が効率よく、円滑に進むように調整を図る。(教務部)	B	B	B	
		公開授業を実施することで、本校で育成をめざす生徒の資質・能力を教員・保護者・地域が共有できるように努めるとともに、授業のさらなる改善に資する。(教務部)	B			
		アンケート形式で生徒が学校・授業・自己を評価する。(ビジョン委員会)	B			
		アンケート形式で保護者が学校や自己を評価する。(ビジョン委員会)	B			
		教員が自らの資質向上や授業改善のため、自己申告シートや授業評価シートを作成し、管理職とともに教科指導や生徒指導、分掌や部活動等での課題を見出し、新たな目標に向けて実践を積み重ねる。(校務運営委員会)	B			
5	教職員の多忙化解消	ア ICTの利活用	統合型校務支援システム等を有効活用し、業務の軽減や効率化を図り、教職員の多忙化解消につなげる。(教育情報部)	B	B	B
		イ 会議等の簡素化	職員会議や各種会議等をペーパーレス化し、会議の簡素化を図ることで、教職員の多忙化解消につなげる。(教務部)	B		
		ウ 部活動指導の適正化	「新潟県部活動の在り方に係る方針」を遵守し、本校の「部活動における活動方針」に基づき、部活動指導の適正化を図る。(生徒会指導部)	B		
成果		○ 単位制6年目をむかえ、本校の特色やスクール・ミッション、スクール・ポリシー等が定着しつつあり、自らの進路実現に向けてカリキュラムを編成し、得意分野を伸ばす学習活動に魅力を感じて入学する生徒が増加した。 ○ 年次団や生徒指導部、いじめ対策委員会、特別支援教育委員会等の各組織が機能し、生徒が抱える多様な問題に柔軟に対応しようとすることができた。 ○ 今後「総合的な探究の時間」をとおして、新潟市江南区等、地域とつながる取組を一層充実させ開かれた学校づくりを引き続き進めていくことが課題である。	総合評価 B			